



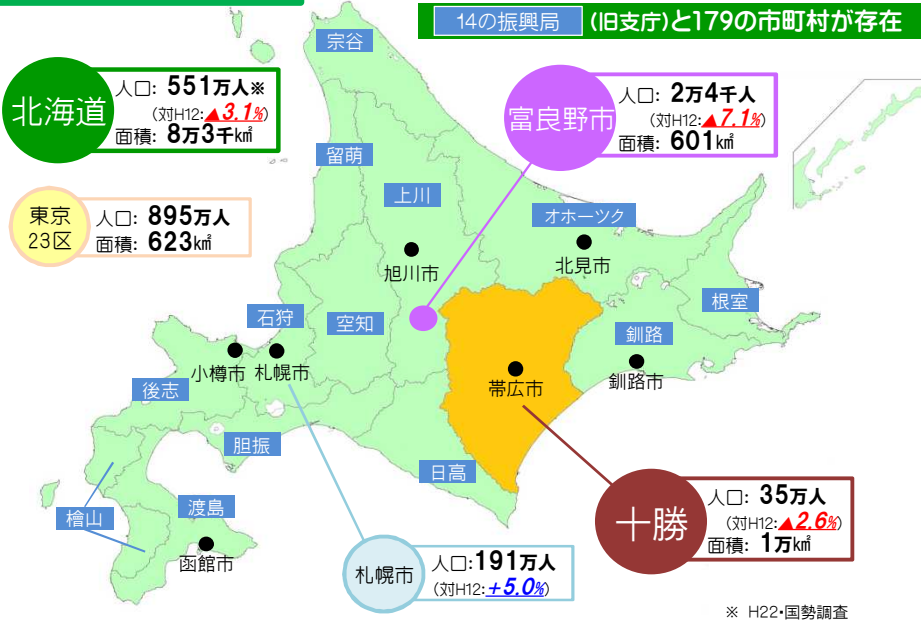
地方公共団体、地域金融機関及び地域の産業界による 地域経済活性化に向けた考えや動きなど

平成27年6月5日
北海道財務局

問合せ先
理財部 金融監督第一課
TEL 011-709-2311
内線4355

1. 地域経済活性化に向けた考えや動き ~北海道~

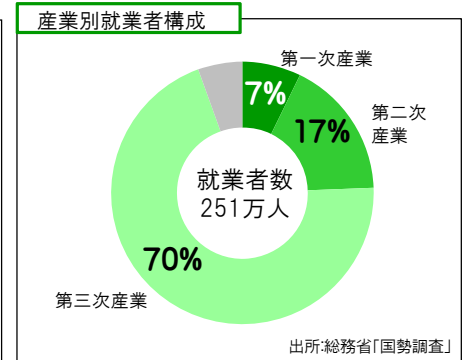
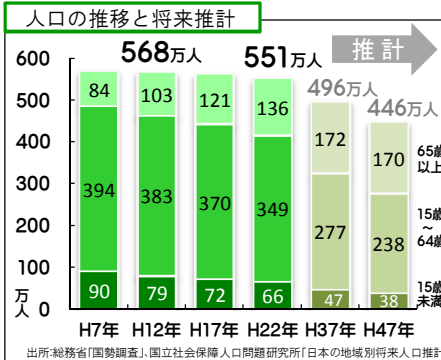
(1) 北海道の概要



- 全国を上回るスピードで人口減少が進行
- 食と観光、ものづくり産業の振興を『オール北海道』で推進

■ 主な地域金融機関 2銀行(北海道銀、北洋銀)、23信金、7信組など

■ 地方創生のキーワード 豊かな自然、『食』と『観光』、安全安心

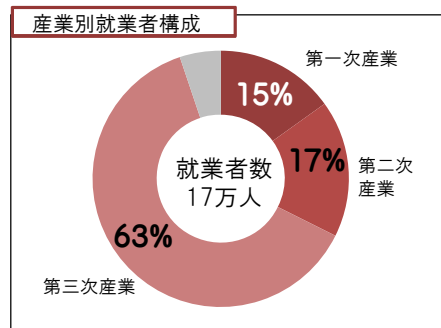
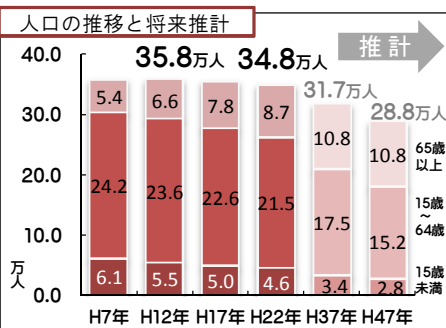


(2) 十勝地域の概要

- 我が国の食料供給を担う重要な農業地域
- 優位性・競争力のある食や農林漁業を中心とした地域振興を展開

■ 主な地域金融機関 帯広信金、十勝信組、地銀(支店)など

■ 地方創生のキーワード 農畜産物の高付加価値化、広域連携

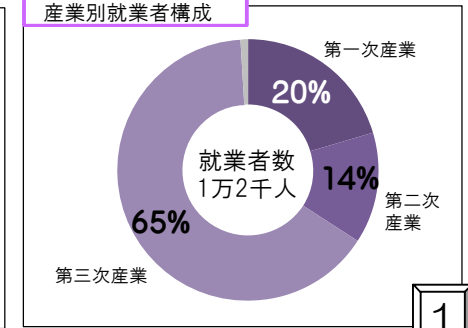
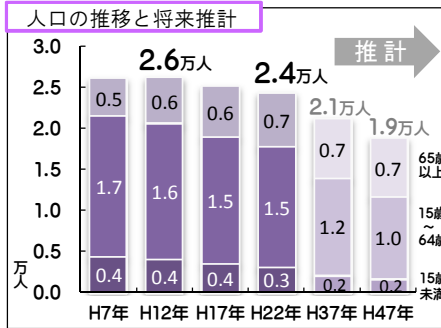


(3) 富良野市の概要

- 『北の国から』ブームが一服、病院移転により中心市街地が衰退
- まちの賑わいの復活に向けた様々なコンパクトシティ施策を展開

■ 主な地域金融機関 旭川信金(支店)、地銀(支店)など

■ 地方創生のキーワード コンパクトシティ、まちなかの賑わい復活



1. 地域経済活性化に向けた考えや動き ～① 北海道～

北海道の現状と中長期の将来像

現 状		中長期の将来像	
まち	 市町村数 (H27.4.1) 179市町村	豊かな自然環境、豊富な農林水産資源・観光資源	◆ 地域間連携 による北海道全体の魅力向上、 バックアップ拠点機能 への期待
ひと	 人口 (H22・国勢調査) 551万人	急速な人口減少・少子高齢化、札幌一極集中	◆ 人口減少問題の克服、交流人口拡大、若者・女性・高齢者等の活躍
こころ	 道内総生産 (H23年度名目) 18.3兆円	過去10年間で1割減少、経済規模の縮小懸念	◆ 食・観光関連産業の振興 一次産業の競争力強化、海外の成長力の取込み、北海道ブランドの確立、6次産業化 ◆ ヘルスケア産業の育成、ものづくり産業の振興 医療・介護機関と食関連事業者等との連携、一次産品加工の効率化など ◆ 産業を支える基盤整備 観光・物流インフラ、エネルギーインフラの充実・強化 (北海道新幹線、高規格道路、港湾等)
こころ	 域際収支 (H23年度) ▲1.6兆円	域際収支は赤字	
こころ	 休廃業・解散 (H25年度) 1,494件	倒産件数の5倍、全国と比べ高水準	

北海道における地方創生に向けた考えや動きなど

① 地方公共団体 (北海道)	② 地域金融機関	③ 北海道の産業界
地方創生に向けた主な動き <ul style="list-style-type: none"> ◆ 『人口減少問題に対する取組指針』の策定 (27年3月) 人口減少問題は道政の最重要課題 H9 道内人口が減少局面に転じる (全国より10年以上早い) H26.8 『北海道の人口減少問題に対する有識者会議』設置 H27.3 取組指針策定 → 地方版総合戦略の基本、市町村の参考 ◆ 各振興局に戦略策定支援担当部長を配置し市町村の地方創生の取組を支援 (27年4月) 	地方創生に向けた主な動き <ul style="list-style-type: none"> ◆ 態勢整備 <ul style="list-style-type: none"> ○ 北洋銀行が『地方創生推進室』(6名)設置 (27年2月) ○ 北海道銀行が『道銀地方創生本部』(15名)設置 (27年4月) ◆ 連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ○ 北洋銀行が地方創生をテーマに『信金トップセミナー』を開催(27年3月) ◆ 地方公共団体への支援 <ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道銀行が『地方創生自治体トップセミナー』を開催(27年2月) ○ 大地みらい信金が根室市役所へ職員を派遣 (27年4月) 	地方創生に向けた主な動き <ul style="list-style-type: none"> ◆ 『北海道成長戦略ビジョン』等の策定 (北海道商工会議所連合会・26年6月) 北海道が成長していくための重点分野を、安全安心、食、観光、エネルギー、物流とした政策を提言。また、その実現に向け官民連携による専門部会を設置し検討中 ◆ 北海道への移住促進に向けた取組み (北海道商工会連合会、道内各商工会) 移住に関する相談会の開催、移住後の創業サポートなど
地方創生に向けた考え <ul style="list-style-type: none"> ◆ 人口減少に関する基本認識の共有 ◆ 北海道の強みを活かした産業と雇用の場の創出 ◆ 北海道らしさを活かして人を呼び込み・呼び戻す ◆ 住み続けたいと思える生活環境、自治体の広域連携等 	地方創生に向けた考え <ul style="list-style-type: none"> ◆ 北海道の強みは食と観光。特に食の分野では中核企業の生産性向上に取り組む必要 ◆ 地方自治体に対する支援に向け、従来以上に広範な情報収集・分析に取り組む必要 	地方創生に向けた考え <ul style="list-style-type: none"> ◆ 北海道の地方創生は食、観光、ものづくり産業を強くするというこれまでの延長線上にある ◆ 金融機関とも連携しつつ、企業の身の丈にあった支援を行っていきたい
地域金融機関に対する意見 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地方版総合戦略の策定作業は今後本格化することから、これまで以上の連携強化をお願いしたい 	地公体・産業界に対する意見 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 各地域が持つ『強み』をサポートしてゆきたい ◆ 広域分散型の北海道では、『地域間連携』がひとつのポイントである 	地域金融機関に対する意見 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地方版総合戦略の策定支援に際しては、地域の関係機関との連携を密にしてほしい ◆ 情報産業としての役割のみならず、商社的な機能をより一層拡充してほしい

2. 地域経済活性化に向けた考えや動き ～② 十勝地域～












■ 十勝地域の現状と中長期の将来像

現 状		中長期の将来像	
まち	 市町村数 (H27.4.1) 19市町村	我が国の食料供給を担う重要な農業地域	◆ 中心的な役割を担う帯広市と周辺町村による広域連携の推進
ひと	 人口 (H22・国勢調査) 34万9千人	人口減少は全道より緩やか	◆ 十勝全体で必要な生活機能を確保し、人の定住を確保
じやうぎやう (経済)	 1次産業就業者数 (H22・国勢調査) 2万5千人	1次産業就業者のシェアは全道の2倍	◆ 優位性・競争力のある『食』や『農林漁業』を中心とした地域振興  <ul style="list-style-type: none"> ○ 生産基盤の整備、担い手育成、試験研究機関との連携 ○ ブランド化、農商工連携、6次産業化の推進 ○ 食文化・美しい自然を活用した観光振興、アジアへの輸出
	 農業産出額 (H18) 2,400億円	全道の約2割を占める最大の食料生産地	
	 事業所数 (H24経済センサス) 1万6千事業所	過去10年間で約1割減少 (H13年:18,824事業所)	

■ 十勝地域における地方創生に向けた考えや動きなど

① 地方公共団体 (十勝総合振興局など)	② 地域金融機関 (帯広信金)	③ 十勝地域の産業界 (帯広商工会議所)
地方創生に向けた主な動き <ul style="list-style-type: none"> ◆ 『フードバレーとちか推進プラン』等の推進 <small>フードバレーとちか推進協議会・24年3月～</small> 食と農林漁業を柱とした産官学金の地域産業支援 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 農林漁業を成長産業にする ✓ 食の価値を創出する ✓ 十勝の魅力を売り込む ◆ 『十勝定住自立圏共生ビジョン』の推進 <small>帯広市など管内19市町村・23年9月～</small> 管内全19市町村による定住促進に向けた広域連携 人口減少問題については本枠組も活用し検討する方針 	地方創生に向けた主な動き <ul style="list-style-type: none"> ◆ 『おびしん地域経営塾』の継続実施 <small>延べ470名の卒業生が各界で活躍 (13年度～)</small> ◆ 『とちか酒文化再現プロジェクト』の継続推進 <small>農商工・産学官金が連携し、十勝の酒文化を再現、新たな産業創出と産業振興を図る (22年度～)</small> ◆ 販路開拓・拡大支援 <small>十勝の事業者や農業生産者の販路開拓等を支援するため、道内外・海外バーチャルとの商談会を開催 (26年度・6都市で開催)</small> 	地方創生に向けた主な動き <ul style="list-style-type: none"> ◆ JICA・JETROと連携した海外展開支援 <small>加工食品の東アジアへの販路拡大支援 タイ・マレーシアでの食の安全安心に関する研修等、途上国への貢献活動の実施</small> ◆ 『おびひろ商人(あきんど)塾』による創業支援 <small>中心市街地の空き店舗で小売・飲食業を開業する経営者を支援 (研修会の実施、改装工事・家賃の補助)</small>
地方創生に向けた考え <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域内経済の好循環を生み出す仕組の構築とグローバルな展開が必要 ◆ ソフト面の取組みや継続したまちづくりのためには、恒久的な財源も必要 	地方創生に向けた考え <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域にとって不可欠な企業は徹底的な支援が必要 ◆ 特に、創業期や経営改善期、事業承継期の支援は重要であり、より一層の強化が必要 	地方創生に向けた考え <ul style="list-style-type: none"> ◆ 十勝の農産品の付加価値化や販路拡大が必要 ◆ 地域の活力を維持するためには、若者の雇用の場を確保し、地元への定着を図る取組みが必要
地域金融機関に対する意見 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 産業や企業の芽を見つけ、育て上げるための知見を提供してほしい 	地公体・産業界に対する意見 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地公体とはこれまでも連携してきたが、地域の弱みや強みを見出すため当金庫のネットワークを有効活用してほしい ◆ 産業界においては、地公体における総合戦略の策定や推進に積極的に関与してほしい 	地域金融機関に対する意見 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 中小企業の経営改善支援については、より一層、金融機関など関係機関と連携して取り組んでまいりたい ◆ 創業を目指す者や補助金の活用を検討する企業に関する情報を積極的に提供してほしい

3. 地域経済活性化に向けた考えや動き ～③ 富良野市～

富良野市の現状と中長期の将来像	
現 状	中長期の将来像
<p>ま  ま</p> <p>病院移転による中心市街地の衰退、官民協働のまちづくりを展開</p>	<p>ま  ま</p> <p>◆ 高齢化社会に向け、誰もが安心して暮らせる賑わいある街</p>
<p>ひ  ひ</p> <p>人口 (H22・国勢調査) 2万4千人</p> <p>全道を上回る人口減少・少子高齢化</p>	<p>ひ  ひ</p> <p>◆ 交流人口の更なる拡大、中心市街地における世代間交流の拡大</p>
<p>じ  じ</p> <p>1次産業就業者数 (H22・国勢調査) 2.5千人</p> <p>就業者の5人に1人が農林業に従事</p>	<p>じ  じ</p> <p>◆ フラノマルシェ・ネーブルタウン事業の推進によるまちの賑わいの復活</p>
<p>し  し</p> <p>事業所数 (H24経済センサス) 1,200 事業所</p> <p>過去10年間で約2割減少 (H13年:1,454事業所)</p>	<p>し  し</p> <p>○ 富良野の『農』と『食』の更なる発信 ○ 商業集積の向上と集客力の強化、安定した雇用の拡大 ○ 滞留拠点施設の整備、商店街を回遊する人々の増加</p>
<p>け  け</p> <p>観光客入込数 (H25年度・富良野市) 177万人</p> <p>豊富な観光資源 (食・自然景観・スキー場等)</p>	<p>け  け</p> <p></p>

富良野市における地方創生に向けた考えや動きなど		
① 地方公共団体 (富良野市)	② 地域金融機関	③ 富良野市の産業界
<p>地方創生に向けた主な動き</p> <p>◆ 新富良野市中心市街地活性化基本計画『ルーバンフラノ構想』の推進</p> <p>1.市民の中心市街地活性化への意識向上による協働のまちづくり → 賑わい感の向上</p> <p>2.まちなか居住環境の充実 → 居住人口の増加</p> <p>3.商業集積の向上による集客力強化 → 小売店舗数の増加</p> <p>4.滞留拠点施設整備とまちなか情報の発信による回遊促進 → 歩行者通行量の増加</p> <p>→ 都会と田舎の魅力を併せもつ『ちょっとおしゃれな田舎町』</p>	<p>地方創生に向けた主な動き</p> <p>◆ 出資・融資による、まちづくり会社への資金供給 <small>北洋銀行、北海道銀行、旭川信金</small></p> <p>地元金融機関が連携し、事業に関する融資や出資に加え、事業計画や資金繰りに関する相談等、まちづくり全般をサポート</p> <p>◆ 食の販路拡大・マッチングに関するサポート <small>旭川信金</small></p> <p>旭川市で毎年開催している食のイベント『駅マルシェ』(主催:旭川信金ほか)に、富良野地域の食関連事業者の出展をサポート。同時開催した商談会ではバイヤーとのマッチングに成功</p>	<p>地方創生に向けた主な動き</p> <p>◆ まちづくり会社中心の地域活性化策の展開</p> <p>衰退する中心市街地に危機感を抱いた有志 (Uターンした事業家、商工会議所、市職員) が集い、『まちづくり会社』による地域活性化策を展開</p> <p> ふらのまちづくり株式会社</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 設立：平成15年10月 ✓ 資本金：8,350万円 ✓ 出資者：59名 (商工会議所、市、JA、金融機関、民間事業者、商店街、商業経営者、市民)
<p>地方創生に向けた考え</p> <p>◆ 富良野の地方創生は、今まで進めてきた『ルーバンフラノ構想』の延長線上にあり、『コンパクトシティ』そのもの</p> <p>◆ 人口減少を食い止め、地域経済を維持するためには、安定した通年雇用を確保できる職場づくりが必要</p>	<p>地方創生に向けた考え</p> <p>◆ 地域活性化に向けた支援は、現場での経験や場数を踏むことが必要であり、外部との連携や人材育成が重要</p> <p>◆ 密接なコミュニケーションを続ける中で、次世代への道筋をつけるためのサポートに取り組みたい</p>	<p>地方創生に向けた考え</p> <p>◆ 富良野のポテンシャルは非常に高く、様々なアドバンテージがある。食と観光という『強み』を活かし、小さな街を元気づける材料を提供してゆきたい</p>
<p>地域金融機関に対する意見</p> <p>◆ 地域金融機関においては、指定金融機関としての役割に加え、まちづくりに対する出資者として、引き続き積極的に関与してほしい</p>	<p>地公体・産業界に対する意見</p> <p>◆ 広域連携に加え、地元で中心的な役割を担う「志」あるプレーヤーの存在が重要</p> <p>◆ 富良野の事例のように、様々なプランニングを掲げ、その上で収支自体も確保できることが必要</p>	<p>地域金融機関に対する意見</p> <p>◆ まちづくり会社設立に際しての、地域金融機関からの出資は、地元から信頼を得る「印籠」になった。日頃からの提案やインフォーマルな付き合いも含め、一企業というよりもエリアへのサポートをお願いしたい</p>